

# 長崎県立大学が挑む、新・

学生が成長するカリキュラムが充実している長崎県立大学。  
常に先を見据えて前進している大学の学びの特色を「独自性」「専門性」「国際性」のテーマで、3回に

# 大学教育。

わたってご紹介します。

**独自性**  
(8月号)

**専門性**  
(10月号)

**国際性**  
(12月号)

「日本初の情報セキュリティを専門的に学ぶ学科」について紹介。

国際経営学科の語学力向上に関する学びを中心に紹介。

## [ 第1回 独自性 ] 高校の学びから、

高校時代のようにひとつずつ答えを求めて学ぶのではなく、答えが複数あり、自ら回答を導き出す大学ならではの学びで、学生は1、2年次のこの取り組みでさまざまな能力を身につけて、上位学年の深い学びにつなげています。プログラムがスタートしてから本年度で5年目。年を経ることも目的としています。



▲学生は「しまなび」によって、行動する力、協力して遂行する力を身につけている。

学生の自主性は高まってきたと感じています。なお、長崎県の多くの「しま」は、急激な人口減少や少子高齢化が進行しており、今後、日本に生じるであろう問題にいち早く直面しています。離島が多い長崎だからこそできる「しまなび」プログラムは、地域のことを深く学ぶことができる教育プログラムでもあります。

点で地域の課題と向き合う本プログラムで確かな社会人基礎力を身につけた本学の学生は、多くの企業から高い評価をいただいている。本学としても、学生の成長のため、地域貢献のため、長期的な視点で取り組んでいきたいと考えています。

### 長崎の「しま」を考察。 独自の学びで社会人基礎力を養う。

中島 洋  
特任教授  
(学長補佐・高大接続担当)



### 「しまなび」プログラム

本学では、県内の離島に学生が滞在して体験学習する「しまなび」プログラムを、全学必修科目として導入しています。「しま」を佐世保校、シーボルト校に次ぐ第3のキャンパスとして位置づけ、4泊5日のフィールドワークを通じて学生が地元住民と交流しながら問題を発見し、解決策を模索、提案する独自の授業です。



▲学生同士が意見を出し合うグループワークでお互いを高め合っている。

1年次の必修科目に「教養セミナー」の時間が設けられています。一般的に教養セミナーといえばノートの取り方やレポートの作成法などスキル面の修得を目的として開講されることが多いですが、本学では少し視点を変えた新しい取り組みを進めています。

高校と大学では学び方も、日々の生活スタイルも異なってきますので、学生たちにはまずその違いを知つてもらいます。「大学生になること」とはどういうことなのか、「大学で学ぶ」とは何か、そして「長崎の地で、長崎県立大学で学ぶ」意味とは何か。大学で主体的に学ぶためには、何より自分が日々通学する大学を好きであることが前提となります。そのため本学の特徴を知りながら、ここでどんな力を身につけていくのか、学生自らが目的・目標を掲げるための基礎づくりとして教養セミナーの内容を構築しています。

自ら目標を掲げ、主体的に学ぶ。  
その姿勢を身につけることが第一歩。

橋本 優花里  
センター長  
(教育開発センター  
学長補佐・教育質向上担当)



高校時代のようにひとつずつ答えを求めて学ぶのではなく、答えが複数あり、自ら回答を導き出す大学ならではの学びで、学生は1、2年次のこの取り組みでさまざまな能力を身につけて、上位学年の深い学びにつなげています。プログラムがスタートしてから本年度で5年目。年を経ることも目的としています。

の講義の間であつても、「やつてみたら楽しかった」「こんなことに気づくことができた」といった自身の学びの変化を実感することにつながります。そしてこのような実感は、自ら主体的にかつ自律的に学ぶための土壌となっていくのです。

なんなく大学に進学して、なんとなく学ぶ。その姿勢は社会人として不可欠であるだけではなく、それぞれの生き方にもつながっていくものです。そうした姿勢を身につけてもらうための最初の一歩、それが本学の教養セミナーが担う役割だと思います。長崎から世界へ。自らを磨き上げる研鑽力を武器に、学生たちに大きく羽ばたいてもらいたい。それが私たちの一番の願いです。